

岡谷市議会 総務委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成27年11月10日（火）～13日（金）

2. 調査事項（視察先）
 - （1）日本一の教育都市実現への取り組みについて（広島県 東広島市）

 - （2）ゆめづくり地域協働プログラムについて（広島県 呉市）

 - （3）定住促進施策について（岡山県 笠岡市）

 - （4）玉野市の概要について
特別支援教育事業及び小中連携教育事業について（岡山県 玉野市）

3. 視察参加委員

委員 長	共 田	武 史
副委員 長	中 島	保 明
委 員	大 塚	秀 樹
委 員	今 井	康 善
委 員	今 井	秀 実
委 員	竹 村	安 弘

【視察地報告】

1. 調査事項

日本一の教育都市実現への取り組みについて（広島県 東広島市）

人口：約184,200人 面積：約635km²

（視察事項）

東広島市では、平成14年度に学校教育レベルアッププランを策定し2学期制や小中一貫接続教育の導入、広島大学との連携事業の推進等、特色のある取り組みにより市の教育レベルの向上に努めてきた。

平成26年度には、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ【アイデンティティの確立とチャレンジ精神の発揮】をコンセプトとする「夢・挑戦プラン」を策定し、生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）の育成、地域に貢献する子どもの育成などをプランの目指す姿の具体として取り組みを行っている。

2. 視察日時 平成27年11月10日（火） 14：00～15：55

3. 参加者所感

- 教育に掛ける意気込みを強く感じた。
- 市民、父兄の学校（教育現場）への理解が進んでいると感じた。
- 「関わりきる」、「やりきらせる」との教育姿勢には、学ぶところが大きい。
- 「関わりきる」、「やりきらせる」の精神（西条教育）を多くの市民が共有しているのではないかと。
- 岡谷市で取り組むのであればターゲットを絞り込んだ目標設定で「教育の岡谷市」を特徴付け、西条教育精神でやり遂げるのではないだろうか。
- 日本一を目指すことで共通の目標が明確になっている。
- 担当課長さんは学校出身とのこともあり現場との指示系統に優位性がある。
- 校長先生のコンペ方式による学校の魅力アップ事業は興味がわく。
- 先生一人ひとりのレベルアップを図るための研修会は岡谷市においても積極的に開催願いたい。

【視察地報告】

1. 調査事項

ゆめづくり地域協働プログラムについて（広島県 呉市）

人口：約 234,600人 面積：約 352 km²

（視察事項）

呉市ではまちづくりの展開として、市民一人ひとりの力、人のつながりを結集して、「これからのまちづくり・ふるさとづくりは、地域の「つながり」や市民の心の「絆」が不可欠」をスローガンに掲げ「地域と行政の協働による、市民主体のまちづくり」を進めている。

「ゆめづくり地域協働プログラム」は市の財政状況から、抑制すべきところは抑制するが、地域が自分たちのまちのために「がんばる」ことに関しては財政的、人的サポートにしっかりと取り組むとして、地域の方が夢を描けるようなプログラムにしたものである。

2. 視察日時 平成27年11月11日（水）9：25～11：35

3. 参加者所感

- 「市民公務員の育成」は、地域への貢献に併せ、市民目線を持った協働型職員の育成という行政側のメリットも大きい。
- 「市民公務員の育成」、「市民まち普請事業」については、岡谷市においても十分に検討の価値があるのではないか。
- 岡谷市では21の区が地域自治として組織され、市民と協働によるまちづくりを岡谷市らしく展開しているところだが、さらなる展開に向けて呉市の例は大いに参考になると感じた。
- まちづくり委員会の立ち上げや運営については、行政の支援とまちづくり委員会のリーダーの責任は重く苦労は計り知れない。この委員会が代替わり等を経験して定着していけば、この組織は強く立派なものになると予想する。また、携わった方々は地域活動のエキスパートになれると思う。
- プログラムの推進により、自立した地域活動を支援し、地域住民が公共的サービスの担い手として自主的に活動する地域社会の構築を目指している。

【視察地報告】

1. 調査事項

定住促進施策について（岡山県 笠岡市）

人口：約 51,600 人 面積：約 136 km²

（視察事項）

笠岡市では、人口が年間で700人～800人減少するなど減少幅が大きかったことから、平成20年に定住促進本部会議を開催して定住促進重点事業を決定し、平成21年度には副市長直結の特命組織である「定住促進センター」を設置して、住宅新築の助成金交付事業、建物取得に関する税制優遇制度の検討、空き家の有効利用対策、オール不動産情報集約提供事業、U・Iターン就職情報、結婚応援事業の6事業を定住促進センターが担当し取り組みを展開した。

2. 視察日時 平成27年11月12日（木） 13：30～15：00

3. 参加者所感

- 住宅新築助成等に年間約1億円を支出しているとのことであり、財政運営上大変な額であると感じたが、定住を促進するための思い切った施策の一つとして参考になった。
- 定住促進センターは副市長の特命組織で迅速な意思決定を可能にしている。また、各種助成金事業や支援事業が豊富で思い切った事業を展開している。さらに、定住ガイドブックの全戸配布は岡谷市で取り組んでも良いと思う。
- 岡谷市でも過去に定住化促進事業を行ったが、その反省点を活かしながら市独自の定住促進を進めてほしい。
- 岡谷市にとっては「産業振興」と「子育てしやすい環境づくり」こそ、最重要課題であると再認識した。
- 職員の皆さんの“ホスピタリティ”、“おもてなし”に感銘を受けた。移住を検討されている方々に対してはもちろん市民に対しても“おもてなし”の気持ちを前面に出して接していると想像できる。

【視察地報告】

1. 調査事項

玉野市政の概要について

特別支援教育事業及び小中連携教育事業について（岡山県 玉野市）

人口：約62,500人 面積：約103km²

（視察事項）

玉野市と岡谷市は昭和55年に姉妹都市を締結し現在まで官民間わず様々な交流を重ねている。

玉野市では、時代の変遷とともに、次の世代に送る荷物は少し軽くしようと、公共施設白書を作成し将来に向けた市の考え方の作業に入っており、平成29年4月には市内の商業施設の2階フロアに文化センターと図書館が移転する。また、市民病院についても、来年4月1日に公設民営の病院に生まれ変わりたいとしている。

特別支援教育への取り組みは、平成19年に国から自閉症教育の取り組みの話があり学校教育の中に導入されてきた。自閉症教育の研究からは「地域支援ネットワーク体制の市内全体での構築」、「各学校園での支援充実のための指導支援の方向性が明確化（授業のユニバーサルデザイン化）」、「個別の支援ファイル等での支援のPDCAサイクルの定着」、「教職員への支援体制の構築」といった到達点を示すことができた。

2. 視察日時 平成27年11月13日（金）9：30～11：45

3. 参加者所感

- 施設を指定管理に出して終わりではなく、これらを核にしてまちづくりを進めていくとの言葉は印象に残った。
- 授業のユニバーサルデザイン化、個別支援ファイルについては、岡谷市においても現状を十分とせず、さらに検討すべきと考える。
- 小中連携教育事業については、英語力向上と小中の生徒指導上の連携を密にするために事業化されている。若年から語学力向上に取り組むことには大いに賛成である。

- 校種間連携の推進によって、保育園・幼稚園と小学校の間、また小学校と中学校の間で教職員が互いを知り合っていること、さらに園児、児童、生徒の一人ひとりについて情報を共有し合っている様子が伝わってきた。岡谷市でも、より一層の連携の推進が必要であると感じた。
- 授業のユニバーサルデザイン化により、障がいを持った子どもたちへの標準的な環境づくりがされている。
- 個別支援ファイルによる計画的、継続的な支援など障がい児が成人するまで見守っていくことは本当に大変なことと思う。
- 担当課長さんの熱意に感心した。支援教育にかける思いと、日常の取り組みが想像できる姿であった。